

# 音楽科学習指導案

平成16年1月30日(金)第4校時  
加世田市立万世中学校

2年3組 男子14名 計30名  
女子16名

指導者 教諭 上村 勉

## 1 題材 「日本の音楽の味わい」

### 2 題材の目標

- (1) 箏曲に親しませ、箏の音色の美しさを感じ取らせる。
- (2) 箏の多様な奏法から生み出される微妙な音の変化とその味わいを感じ取らせる。
- (3) 日本の音階による旋律・段の構成・旋律と速度の変化などの特徴に気付かせる。
- (4) 箏を演奏することによりその音色や響きを感じ取り、楽曲の雰囲気味わわせる。

### 3 題材の評価規準

- (1) 箏曲に親しみをもち、意欲的に鑑賞・表現活動に取り組んでいる。  
(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 日本の旋律の特徴や箏の音色の特徴を感じ取って、表現を工夫しようとしている。  
(音楽的感受や表現の工夫)
- (3) 箏の音色や特徴を生かした演奏をすることができる。  
(表現の技能)
- (4) 日本の伝統音楽のよさを味わって聴くことができる。  
(鑑賞の能力)

### 4 教材

- 「六段の調」 八橋 検校 作曲  
「春の海」 宮城道雄 作曲  
「さくらさくら」 日本古謡  
「荒城の月」 土井 晩翠 作詞 滝 廉太郎 作曲  
「Let's Try! 『さくらさくら』を箏で弾こう」

### 5 題材について

#### (1) 題材設定の理由

日本で生まれ育ち、日本語で話したり考えたりする私たちの音の感覚は、日本の自然や風土の影響を受け、西洋人とは異なった独特の音の好みに根ざしている。すなわち、単音・余韻・噪音・声音・音色などを好む根本性格を持っているのである。このような日本の響きのよさは、現代の中学生には一見無関係なことのようと思われるかもしれないが決してそうではない。そうした日本的感性に気づいていないだけで、自分の中には日本人の音の感覚が脈々と息づいているのである。

## 7 指導計画

### (1) 指導計画（全3時間・本時3 / 3）

時 間		1 時 間	2 時 間	3 時 間（本時）
教 材	・ 六段の調			
	・ 春の海			
	・ さくらさくら			
	・ 荒城の月			
	・ Let's Try!			
学 習 内 容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「春の海」, 「六段の調」を鑑賞する。</li> <li>・ 曲とその構成について理解する。</li> <li>・ LDで視聴し, 演奏技法の特徴や余韻の効果等を感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初段から六段までの音楽の特徴を感じ取る。</li> <li>・ 箏の音色や楽器の特徴をつかむ。</li> <li>・ 楽曲の雰囲気や曲想を感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に箏を演奏しながら楽器の構造や演奏方法音階を理解する。</li> <li>・ 実際に箏を演奏して音色の美しさや響きを感じ取る。</li> <li>・ まとめをする。</li> </ul>
評 価		規 準 (1) (4)	規 準 (1) (4)	規 準 (1) (2) (3) (4)

### (2) 指導にあたって

日本の伝統的な音楽に興味・関心をもち, 意欲的に活動させたい。

伝統的な楽器の特徴やそのよさをとらえさせたい。

各段ごとの終結や変奏曲的性格, 速度の変化に気づき, 曲想とのかかわりを理解して聴かせたい。

日本の音階を理解し, 楽曲全体を味わって聴かせたい。

「押し手」や「引き色」など独特の奏法について理解し, 表現活動に生かしたい。

## 8 本時の実際（3 / 3）

### (1) 本時の目標

箏の響きに関心をもち, 進んで活動に取り組むことができる。

奏法等を理解しながら, 箏を演奏することができる。

(2) 評価規準

独特の響きのある音色に関心を持ち，進んで活動している。(観察法,ワークシート)

箏の奏法等を理解し，豊かな表現をすることができる。(観察法)

(3) 展開

過程	時間	学 習 内 容	学習形態	指 導 上 の 留 意 点 ( は 評 価 )
かん じ る	5 分	1 前時の学習内容を想起する。	一 斉	前時，楽曲や楽器の特徴について学習したことを想起させ，ノートを基に，既習曲の確認をする。 既習曲を確認している。
と ら え る あ じ わ う	25 分	2 本時の目標を知る。 箏を演奏してその音色や響きを感じ取り，曲の雰囲気を楽しむ。 3 箏の演奏をする。 (1) 「さくらさくら」を練習する。 (2) 「荒城の月」を練習する。	一 斉  グループ 個人	本時の目標と学習の流れについて知らせ，意欲を高めさせる。 目標を把握している。 箏の扱い方について説明し，グループで活動することを告げる。  教師の範奏を聴くことで，活動がスムーズに進むようにさせる。 意欲的に視聴している。 箏譜の読み方について，確認させる。 グループごとの演奏能力に応じ，「荒城の月」を練習させる。 思うように活動できないグループは，教師と一緒に活動する等の手立てを行う。 興味・関心をもって取り組んでいる。
ひ ろ げ る	20 分	4 グループ相互に発表・鑑賞し合う。 5 本時のまとめをする。	一 斉 グループ  個人	他のグループのよさを認め合うように助言する。 意欲的に表現・鑑賞活動に取り組んでいる。 自己評価・感想を記入させ，自分の活動を振り返らせる。 目標達成の確認をしている。

(4) 評価

箏の響きに関心を持ち，進んで活動に取り組むことができたか。

奏法等を理解しながら，箏を演奏することができたか。

〔授業後の生徒の感想〕

おことは興味があったので、先生の話がちゃんと耳に入った。箏を演奏して思ったのは、練習すればするほど上達するということだ。自分的には他の曲などをもっと長い時間をかけて箏を演奏したかったと感じた。

八橋検校作曲の「六段の調」を聴けて良かったと思います。検校という目の不自由な音楽家の最高官位の人のが作った曲を聴けて、とてもうれしかったです。また、「さくらさくら」を箏で演奏できたときはとてもうれしかったです。

箏は13本も弦があって、時々混乱して分からなくなったりすることがあった。当然、箏を弾いたことはなかったし、さわったこともなかったから弾けてうれしかった。演奏方法の中でおもしろかったのが押し手です。弦を押したら音が変わるのがおもしろかった。

箏を演奏することができて面白かった。自分なりによく演奏できたのでうれしかった。だけど、正座だったので、足がとても痛かった。

おことの演奏が一番面白かったです。選択音楽でやっていたということもあったけど、クラスの人たちとするおことも選択授業とは少し違った面白さがありました。研究授業の時、本校の先生方や他校の先生方がたくさん見に来てくださり、余ったおことで曲に挑戦していました。私が「おことは楽しい」という気持ちと同じで、いろんな先生たちもおことを弾いてみて笑顔になってくれてうれしかったです。

箏を演奏するのはとても楽しいでした。箏なんて演奏したことがなくて、最初はすごくすごく緊張しました。でも、何回か演奏することで箏の楽しさが分かりました。

ことは弾いたことがなかったし最初はあまり興味もなかったけど、実際にさわってみてとても興味深くて「もっともっとたくさん弾きたかったなあ」と思いました。これからの音楽の授業などで日本の伝統的な音楽や楽器についてこと以外の楽器にもふれたりしてもっともっと知りたいと思います。

箏を使ってさくらを弾いたり、荒城の月を弾いたりしました。箏に触れるのは初めてで、緊張したけど、とてもいい経験になりました。授業の最後の方では教科書に載っているさくらも弾けるようになりました。うれしかったです。また箏を使っている曲を弾いてみたいです。本当に楽しかったです。

日本の音楽を学ぶということは、音楽における日本人としての主体性を覚醒させるということにほかならない。

本題材では、日本の音楽、とりわけ箏（曲）に興味・関心をもたせ、箏の音色の美しさや奏法の多様さを味わわせることを通して、その効果やおもしろさ、また、西洋音楽とは異なった独特のよさを感じ取らせることをねらいとしている。そして、生徒が日本の伝統音楽や和楽器に興味・関心を持ち続け、それを広げ、深めていくためのきっかけともなる。そのために箏以外にも和楽器があること、日本の伝統音楽にはさまざまなジャンルがあること、外国の伝統音楽について知ることなどの学習の広がりをもたせることは意義深いことである。

箏は音色が美しく、和楽器の中で最も安定した音程で演奏ができる。また、歌（合唱）やいろいろな楽器とのアンサンブルが可能である。そこで、この題材で箏（曲）についての知識を得て、奏法を体験させることによって箏に親しませ、和楽器を演奏することの楽しさや喜びを味わわせ、我が国の伝統文化を大切にすることを育成することをねらいとし、本題材を設定した。

## (2) 教材について

「六段の調」は正式名称で、通常略して「六段」と呼ばれている。歌詞のない純粋な器楽曲で 段物 あるいは 調べ物 に属する。52拍子（拍子、26小節で104拍）で作られた段が六つあるので、「六段」といわれる。初段には、換頭といわれる導入句（1小節分）がある。調は平調子である。本来は箏の独奏曲であるが、後に三味線や尺八の曲にも編曲され、それらと合奏できることも稀にある。この曲は箏曲の代表作というだけでなく、数少ない邦楽の器楽曲の代表作として有名で、国際的にもよく知られているので、日本の伝統音楽の雰囲気や箏曲のよさを味わうことができる。

「春の海」は、箏と尺八の二重奏の曲であるが、日本の正月の音楽として定着している。非常に有名な曲なので、導入部で生徒に興味・関心をもたせることができる。

「さくらさくら」と「荒城の月」は歌唱曲であるが、日本独特の五音階（陰音階）で作られており、箏で容易に演奏することができる。

## 6 生徒の実態

本学級の生徒は、明るく活発な生徒が多く、音楽に対する興味・関心は高い。また、1年時に「雅楽 越天楽」を鑑賞し、日本の伝統音楽に対してある程度の知識はある。

しかし、伝統音楽に対して親しんでいるとは言い難い。これは、生徒の身の周りにそういう環境・機会がないということに他ならないと考える。

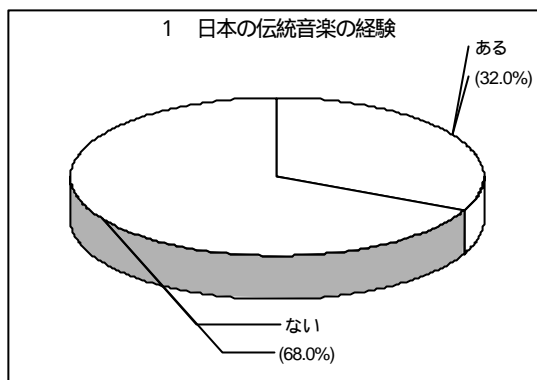
そこで、鑑賞と表現の一体化を図り、鑑賞で得た知識を表現活動へとつなげる活動を行うことにより、伝統音楽に対し一歩進んだ姿勢を培うことができると考えた。

本時の授業を前に伝統音楽に対する生徒の実態を把握するため、アンケート調査を実施した。以下はその結果である。（25名回答）

日本の伝統音楽に関するアンケート

・平成16年1月15日実施 25名回答

1 あなたは、これまでに日本の伝統的な音楽を実際に見たり，聴いたり，演奏したり，踊ったりした経験がありますか？（右円グラフ参照）

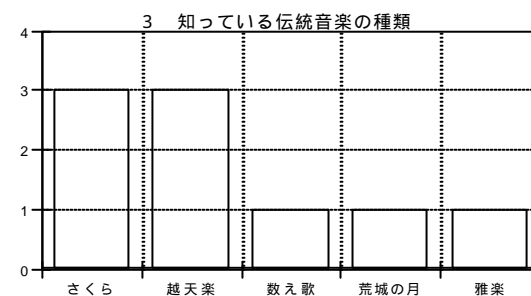


2 それはどのような経験ですか。また，その感想も教えてください。

伝統音楽を経験した内容	伝統音楽を経験した感想
選択音楽で，箏や篠笛を演奏した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おもしろかった。</li> <li>・ 難しかった。指が痛い。</li> <li>・ 息が苦しい。</li> </ul>
三線を弾いているところを見た。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄の人で，すごく上手でいろんな曲を弾いて，すごいと思った。</li> </ul>
太鼓の生演奏を見に行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すごい迫力で感動した。</li> <li>・ すごく上手で感動した。また行きたいと思った。</li> </ul>
日本舞踊・和太鼓をした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小さいころであまり覚えていないけど，楽しかった。着物を着るのが嬉しかった。</li> </ul>

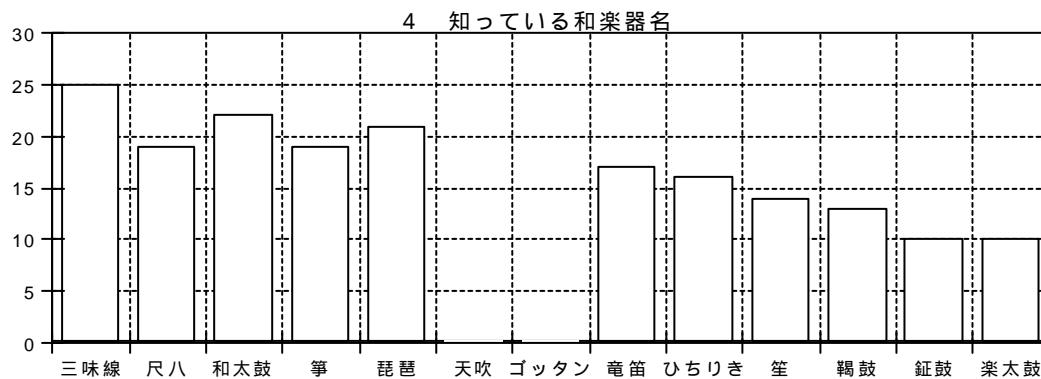
3 あなたが知っている日本の伝統的な音楽を教えてください。

（右グラフ参照）



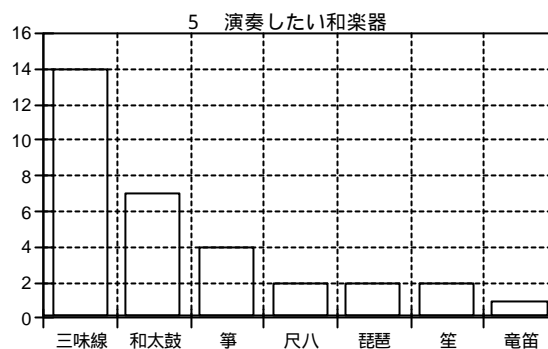
4 あなたが知っている和楽器を教えてください。

（下グラフ参照）



5 あなたが、演奏してみたい和楽器は何ですか？（右グラフ参照）

6 日本の伝統音楽について、どのような考えを持っているか、教えてください。



たくさんいろんな曲を聴いてみたい。

いろんな曲を演奏してみたい。

日本のなつかしさが音楽をとおして感じられる。

難しそう、覚えにくそう。

今まで聞いたことがあまりなかったけど、機会があったらどんどん聞きたい。あまり見たり、聞いたり、触ったりしたことがないのでよく分からないから、これからもっと伝統音楽が広がって知る機会が増えればいいと思う。

日本独特の音楽で他の国にない。音に特徴がある。

伝統的な楽器で演奏してみたい。

きれいで落ち着いた音楽だと思う。和の心。

とても歴史が長く、聞くと昔の風景を思い出す。

なごみがあって、いやされる感じ。

古き良き時代の音楽。

代々受け継がれている音楽だから、ずっと受け継がれていけばみんなに知ってもらえるんじゃないかと思う。

静かな曲だと思う。

古くから伝わる音楽で聴きやすい。聴いて落ち着く。

きれいな音だと思う。

伝統的な日本音楽を聴いたことがないので、1回ぐらいは実際に聴いてみたいと思った。

伝統的な楽器でたくさん演奏してみたり、楽器の音色を聴いてみたい。

高価な楽器。飾りの派手な楽器。

古くからある音楽で五音階の曲。地方によっていろいろな曲がある。

不思議な音でなつかしい。

よく今の時代まで伝わったなあと思う。

#### [ 考 察 ]

このアンケート調査の結果から、生徒のほとんどが「伝統音楽」自体に抵抗感があるのではなく、その他の要因から身近なものでないと感じていることが分かる。自分の周囲にそういう環境がないからという消極的な考えではなく、自ら伝統音楽・和楽器に親しむ態度を育成していくことが肝要である。

上記のように、生徒は決して日本の伝統音楽（楽器）に対して否定的な考えではなく、むしろ肯定的にとらえている。このことは、生徒個々に応じた学習形態等の工夫を図ることにより、生徒のこれからの能動的な活動に結びついていくものと考えた。

箏に限らず和楽器を、生徒一人一台そろえるのは現状からは厳しい。しかし、少しでも伝統音楽に親しむきっかけとして指導法や教材を工夫し、生徒の関心・意欲を高めたい。